

中等教育研究開発室年報 第34号（2021年3月31日発行）別冊電子版
2020年度 授業実践事例

英語科 中学校第1学年

英語で記録文を書く—探究的なプロセスによる知識・技能の習得—

授業者 山岡 大基

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 外国語科（英語） 学習指導案

指導者 山岡 大基

日 時	令和2年12月4日（金） 第2限 9:40～10:30
場 所	第4研修室
学年・組	中学校1年A組41人（男子21人 女子20人）
単 元	英語で記録文を書く Lesson 9 Four Seasons <i>New Crown English Course 1</i> （三省堂）
目 標	過去の出来事について情報を整理して書く。

指導計画（全11時間）

- 第一次 教科書本文の内容・言語材料の理解 3時間
- 第二次 動詞の活用と品詞転換の理解 4時間（本時 1/4）
- 第三次 過去の出来事について情報を整理して書く 4時間

授業について

英語の授業としては週4時間を「英語1」3時間、「英語2」1時間に分けて運用している。「英語1」では、主に教科書を用いて、言語材料と言語活動の総合的な学習を展開している。本単元では、日本の中学校に通うアメリカ人生徒 Emma が、日本での学校生活を振り返るブログ記事を書いているという状況で、過去の出来事を述べる場面が設定されている。言語材料は動詞の過去形であり、付随して時や場所を表す副詞類の学習が焦点化される。言語活動の面では、過去の出来事を時系列で整理して述べる技能を育てる活動を設定することができる。

一方「英語2」では、主に文法事項の体系的な学習を行っている。本単元では、過去時制の文の作り方や不規則変化動詞の活用を学ぶ。また、直近の単元で法助動詞 *can* および現在進行形を学んでいることから、動詞の準動詞化（時制・人称・数を表示する機能を失う・活用語尾が付くと形容詞・副詞の機能を併せ持つようになる）という現象の理解が始まっている。このことを踏まえ、*-ing* 形の品詞転換機能を焦点化し、動詞を柔軟に運用することで、より幅広い事柄が表現できる力を育てたい。

学習形態については、新型コロナウイルス感染症の影響から、4・5月の休校期間における家庭学習のみならず、学校再開後の対面授業においても、個人単位での学習活動を主体とすることを余儀なくされている。しかも、中学1年生の場合、英語を体系的に学ぶのはこれが初めてであり、他者の補助なく英文を理解するのは、言語事実を統合・一般化して捉えるのが苦手な生徒や、個別学習のスタイルが適合しない生徒にとっては例年に増して困難が大きい。

そこで、記号付与による補助を行い、生徒の理解を支援することを、休校期間から継続して試みている。また、教科書では随時・散発的に扱われるが実際は関連の深い項目を整理して体系立て、英語という言語の性質に沿って学習ができる教材を開発し、特に習熟度の低い生徒の支援を目的として指導に取り入れている。

そのような背景において、本単元では、生徒個々が動詞の品詞転換と、それと関連する事象について、暗記と反復訓練だけでなく、各自が持てるツールやリソース（記号・辞書・既習事項等）を活用して学びを深めることを「探究的学習」と捉え、学習活動を仕掛けたい。

題 目 探究的なプロセスによる知識・技能の習得

本時の目標

1. 動詞の品詞転換について理解する。(知識・技能)

本時の評価規準 (観点/方法)

1. 動詞の品詞転換について理解している。(知識・技能/ペーパーテスト)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
1. 帯活動	<ul style="list-style-type: none"> ・不規則変化動詞活用表を音読する。 ・チャンツを練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・母音の変化を正確に発音することに留意させる。
2. 復習	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進行形および法助動詞の文での動詞の語形と機能の変化について既習事項を確認する。 ・品詞の概念について既習事項を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・品詞は他の語との関係性で決まることを意識させる。
3. 導入 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;">見通す</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進行形以外の動詞の-ing 形を含む英文を聞いて、意味を推測する。 ・聞いた英文のスクリプトを読み、文構造がどのようになっているのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独力での解釈を支援する。
4. 説明	<ul style="list-style-type: none"> ・『構文で学ぶ英文法』を参照し、動詞の品詞転換について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習した内容と関連付けた理解を促す。
5. 練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;">慣れる</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 100px;">試行錯誤する</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の-ing 形を含む英文を聞いて、意味を推測する。 ・聞いた英文のスクリプトを読み、記号を付与する。 ・記号付与した英文を日本語に訳す。 ・文構造と意味について他の生徒と意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独力での解釈を支援する。
6. 次時への接続		<ul style="list-style-type: none"> ・次時に向けての家庭学習課題を示す。

備考

(1) 授業で使ったワークシート(授業時の電子黒板による書き込みを含む)

英語 2

1. Review 復習

Ken (likes) video games.
 テレゲーム

But he (does) not play them every day.
 副

He (is) studying English today.
 1 5 4 3 2 副

Every day (is) special for him.
 名 1 5 4 3 2

品詞 5詞
 動 ← 名 ← 形
 ↑
 2詞

2. Dictation 書き取り

(昨日の答え)

... One day, I was walking along the main street of the town.

... I had lots of bags with me after buying Christmas presents for my friends.

... The bags were very heavy, but I had to walk.

... I saw a lot of cars running on the road.

... I gave a sigh.

(上の続き)

.....

.....

.....

.....

(2) ディクテーションの SCRIPT

前時に使用した英文

One day, I was walking along the main street of the town.
I had lots of bags with me after buying Christmas presents for my friends.
The bags were very heavy, but I had to walk.
I saw a lot of cars running on the road.
I gave a sigh.

本時で使用した英文

Then, one of the cars stopped near me, screeching.
I was surprised and looked at the driver.
The driver was Ms. Cameron, my piano teacher.
She found me walking there with a lot of bags.
Driving home with her was easy and fun.
I thanked her.

次時で使用する英文

One day, a detective was walking along the main street of the town.
He was hungry after walking around for many hours.
He wanted to have lunch.
He looked into some stores and he saw a lot of people shopping in them.
Then, he found a bakery and went into it.
Nobody there saw him coming in.
He looked at the shelves quickly and found some cheese.
He took a small piece of it with his mouth.
He also found some small breads like balls.
But his mouth was full with the cheese, so he did not take them.
He went out of the bakery without paying for the cheese.

(3) オリジナル教材『構文で学ぶ英文法』抜粋

Chapter 8 Conversion of Verb 動詞の品詞転換

1. to Infinitive to 不定詞

いろいろと複雑なことを言い表すのに動詞は欠かせません。そのため、動詞をそのまま動詞として使うだけでなく、他の品詞に転換する文法があります。この章では、そういった、動詞を他の品詞に転換する使い方を学びます。

1つめは、「to 不定詞(とー・ふていし)」、あるいは単純に「不定詞(ふていし)」と呼ばれる形です。

[to 不定詞]

(1) Everybody agreed to have lunch now. みんなが、もうお昼ご飯を食べることに同意した。

(2) We had many things to do in the morning. 私たちは午前中はやるべきことがたくさんあった。

(3) The cafeteria provides a variety of dishes to choose from.

食堂は、(そこから)選べるいろいろな料理を提供してくれる。

(4) Some students go there to have lunch every day.

一部の生徒は、毎日お昼ごはんを食べるためにそこに行く。

(5) We are happy to have delicious meals. 私たちは、おいしい食事が食べられて幸せだ。

記号を付けてみましょう。

(1) Everybody (agreed) to have lunch now. みんなが、もうお昼ご飯を 食べる こと に同意した

(2) We had many things to do (in the morning).

私たちは(午前中は)やる ことがたくさん あった

(3) The cafeteria provides a variety of dishes to choose from

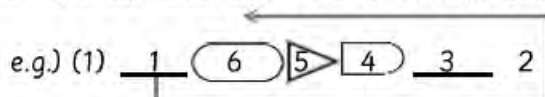
食堂は、そこから 選べる いろいろな料理を 提供してくれる

(4) Some students go there to have lunch every day.

一部の生徒は、毎日 お昼ごはんを 食べる ため そこに 行く

(5) We are happy to have delicious meals. 私たちは、おいしい食事が 食べられ 幸せ だ

英語から日本語への訳順は、これまでの原則通りであることを確認してください。



さて、上の用例の中には、to have, to do, to choose といった、見慣れない形があります。

記号で言えば、▷□ の形です。品詞で言うと、前置詞＋動詞の原形です。これまで▷は名詞の前にしか現れませんでした。しかし、ここでは動詞と結びついています。このようなことが起こるのは、前置詞の中でもto だけです。この「to＋動詞の原形」を「to 不定詞」もしくは、単に「不定詞」と呼びます。

ここでも記号は、内部構造を省略した場合、
many things to do in the morning
あるいは
many things to do in the morning
のようにすることとします。

< 副詞の働き(副詞用法)と意味 >

(4) Some students go there to have lunch every day.

一部の生徒は、毎日お昼ごはんを食べるためにそこに行く。

(5) We are happy to have delicious meals.

私たちは、おいしい食事が食べられて幸せだ。

「～ために」「～して」という意味です。to have lunch で「お昼ごはんを食べるために」、to have delicious meals で「おいしい食事が食べられて」という意味です。

▷ ◻ 全体が、副詞として動詞と結びつきます。

(5)の happy のように感情を表す形容詞が使われている場合、to 不定詞は、その感情を引き起こした原因を表します。

記号については、副詞なので、▷ ◻ を省略する場合は、全体が無印とします。

to 不定詞の意味は、上で見たように「～こと」「～べき」「～ための」「～ために」「～して」です。

ただし、dishes to choose from を「選ぶべき料理」や「選ぶための料理」と訳すと奇妙な日本語になるように、必ずしもこれらの語尾を付けて訳せばよいということではありません。

和訳する場合は、その to 不定詞の働きが3つのうちのどれなのかを考え、文脈に合わせた日本語を選びます。

さて、これらのことから、to 不定詞は、普通ならば前置詞とは結び付かない動詞に to を付けることで、動詞を他の品詞に転用する文法であることが分かります。

したがって、to は、「この動詞は、一人前の動詞ではありませんよ。動詞としては半人前で、その分、他の品詞の働きをしていますよ」という目印になっている、と考えてください。

このような目印を、この教材では「品詞転換マーカー」と呼ぶことにします。

[練習1] 次の英文に記号を付け、日本語に訳しましょう。

(1) I don't like to go out in the morning in winter.

(2) My alarm clock tells me the time to wake up.

(3) I get up early to walk with Max.

(4) Every morning Max waits for me with the leash to lead him. (leash 動物をつなぐひも・リード)

(5) I get back some energy to see his happy face.

[復元英訳] 次の日本語を英語に訳しましょう。(答えは pp.116,119 を見てください。)

(1) みんなが、もうお昼ごはんを食べることに同意した。

_____ ○ ▷ _____

(2) 私たちは午前中はやるべきことがたくさんあった。

_____ ○ _____ ▷ (▷ _____)

(3) 食堂は(そこから)選べるいろいろな料理を提供してくれる。

_____ ○ _____ ▷ ▷

(4) 一部の生徒は、毎日お昼ごはんを食べるためにそこに行く。

_____ ○ _____ ▷ _____

(5) 私たちは、おいしい食事が食べられて幸せだ。

_____ ○ _____ ▷ _____

(6) 私は、冬は朝に出かけるのが好きではありません。

_____ ○ _____ ▷ (▷ _____) (▷ _____)

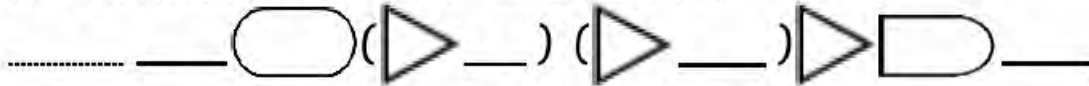
(7) 私の目覚まし時計は、起きる(べき)時間を私に教えてくれます。

_____ ○ _____ ▷ _____

(8) 私はマックスと散歩するために早く起きます。



(9) 毎朝マックスは彼を連れるためのリードと一緒に私を待っています。



(10) 私は彼の嬉しそうな顔を見ると、いらか元氣(エネルギー)を取り戻します。



[練習2] 次の和文を英語に訳しましょう。

(1) マリと僕の日課(daily routine)は、朝、近所を散歩することです。

Mari and my daily routine (around / is / walk / to) the neighborhood

(2) 僕は、彼女を誘うために、リードを口にくわえます。

I hold the leash in my mouth (invite / to / her).

(3) 僕は、外に連れ出してくれる人が必要です。

I need (me / someone / take / to /) out.

(4) その散歩は、健康でいるための必要な運動です。

The walk is (stay / a / exercise / to / necessary) healthy

(5) マリと一緒に1日を始めるととても幸せです。

I feel very happy (start / my / to / day) with Mari.

[解説]ダミー主語 it と to 不定詞の組み合わせ

第5章で学習したダミー主語 it を to 不定詞(「～すること」と組み合わせられた構文があります。

(a) It is dangerous to use a smartphone while you are walking.

歩いている最中にスマートフォンを使うのは危険です。

(b) It is not so easy for me to speak English like Ms. Nishino.

私にとって、西野さんのように英語を話すことは、そんなに簡単ではありません。

(a) It is dangerous to use a smartphone while you are walking.

(b) It is not so easy for me to speak English like Ms. Nishino.

to 不定詞を文頭に置くと長すぎるので、ダミー主語 it を仮に置いておき、to 不定詞を後回しにする構文です。
it 自体に意味はないので、訳す場合は、to 不定詞を代入して理解します。

Chapter 8 Conversion of Verb 動詞の品詞転換

2. -ing form ing形

品詞転換マーカ―の2つめは, ing です。これは, 動詞の語尾に付いて, その動詞が別の品詞に転用されていることを示します。動詞の語尾に ing が付いた形は, 「ing 形(あいえん・じーけい)」と呼ばれます。

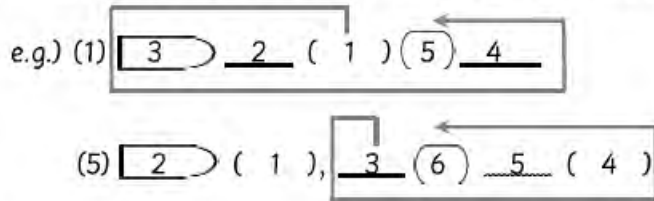
[ing 形]

- (1) Having lunch with my friends is great fun. 友だちと昼食をとることは, とても楽しいです。
(2) I like talking to them over lunch. 彼(女)らと昼食をとりながら話をするのが好きです。
(3) Sometimes I hear surprising news from them.
ときどき, 私は, 彼(女)らから, びっくりする話を聞きます。
(4) They talk about things happening in their life.
彼(女)らは, 生活の中で起こっていることについて話します。
(5) Laughing with my friends, I feel really satisfied about my life.
友だちと笑いあっていると, 私は自分の人生について, 本当に満たされていると感じます。
(6) I prepare for the afternoon classes feeling warm in my heart.
私は, 心の中が暖かく感じながら, 午後の授業の準備をします。

記号を付けてみましょう。

- (1) Having lunch (with my friends) is great fun. (友だちと) 昼食をとることは, とても楽しい です。
(2) I like talking (to them) (over lunch). (彼(女)らと) 昼食をとりながら 話をするのが 好きです。
(3) Sometimes I hear surprising news (from them).
ときどき, 私は, (彼(女)らから), びっくりする話を 聞きます。
(4) They talk (about things happening (in their life)).
彼(女)らは, ((生活の中で) 起こっていることについて) 話します。
(5) Laughing (with my friends), I feel really satisfied (about my life).
(友だちと) 笑いあっている, 私は (自分の人生について), 本当に満たされていると 感じます。
(6) I prepare (for the afternoon classes) feeling warm (in my heart).
私は, (心の中が) 暖かく 感じながら, (午後の授業の) 準備を します。

英語から日本語への訳順は原則通りなのですが、少し分かりにくい文もありますね。



次の説明を読み、どうい理屈でこの訳順になっているかを、落ち着いて考えてみてください。

[ing 形の形と働きと意味]

形

動詞の語尾に ing を付けた形です。

働きと意味

to 不定詞と同じく、名詞・形容詞・副詞の3つの働きがあります。

品詞転換マーカーが付くことで完全な動詞ではなくなることも、および、それでも動詞としての働きが一部には残っていることも、to 不定詞と同じです。

<名詞の働き(名詞用法)と意味>

(1) Having lunch (with my friends) is great fun. 友だちと昼食をとることは、とても楽しいです。

「～こと」という意味です。ただし、動詞としての働きが残っているので、「～を・に」を表す言葉(目的語)と結びつき、「…を～すること」という意味になります。(1)では、having lunch with my friends がひとまとまりの名詞句になります。

そうすると、文全体は、次のような構文になっていることが分かります。(勘違いしやすいですが、funは名詞と考えるのが基本です。)

Having lunch with my friends is great fun.

シンプルな $\underline{\quad} \text{ (} \underline{\quad} \text{) } \underline{\quad}$ の構文なので、文全体の訳順は $\boxed{1} \leftarrow \boxed{3} \underline{2}$ です。

しかし、 $\underline{1}$ の内部だけ見れば、 $\boxed{3} \rightarrow \underline{2} \text{ (} \underline{1} \text{)}$ です。

この組み合わせが、(1) $\boxed{3} \rightarrow \underline{2} \text{ (} \underline{1} \text{) } \leftarrow \boxed{5} \underline{4}$ という訳順です。

記号の付け方については、to 不定詞の場合と同じく、内部構造を省略する場合は、

Having lunch with my friends

とすることにします。

(2) I like talking to them over lunch. 彼(女)らと昼食をとりながら話をするのが好きです。

こちらも、talking to them over lunch がひとまとまりの名詞句です。(overは、「(食事など)をしながら」という意味です。)

名詞用法の ing 形は、「動名詞」と呼ばれることもあります。

< 形容詞の働き(形容詞用法)と意味 >

(3) Sometimes I hear surprising news from them.

ときどき、私は、彼(女)らから、びっくりする話を聞きます。

surprising は純粋な形容詞として扱う場合も多いのですが、もともとは surprise 「驚かせる」という動詞の ing 形です。ing 形になることで、動詞が形容詞に転用されています。

つまり、「驚かせる」→「驚かせるような・驚かせる性質のある」という転用です。

記号の付け方ですが、surprising は形容詞ですので surprising news でひとまとまりの名詞句として、

surprising news

のようにすることができます。

(4)は後置用法の例です。

(4) They talk about things happening in their life.

彼(女)らは、生活の中で起こっていることについて話します。

happen は「起こる・発生する」という意味の動詞です。その ing 形は、「起こる・起こっている」という意味になります。happening in their life がひとまとまりの形容詞として、things を説明しています。

記号は、(3)と同じで、

things happening in their life

のようにすることができます。

形容詞用法の ing 形は、「現在分詞(げんざいぶんし)」と呼ばれることもあります。

< 副詞の働き(副詞用法)と意味 >

(5) Laughing with my friends, I feel really satisfied about my life.

友だちと笑いあっていると、私は自分の人生について、本当に満たされていると感じます。

laugh「笑う」という意味の動詞が ing 形になり、「笑っている」という意味になります。

ここでは、(3)(4)のように名詞の説明をしているわけではなく、laughing with my friends だけで独立して使われています。これは、I feel really satisfied about my life という文全体に対して、「どのような状況で」という情報を付け加える形です。

(6) I prepare for the afternoon classes feeling warm in my heart.

私は、心の中が暖かく感じながら、午後の授業の準備をします。

(6)も同じで、どのような状況で I prepare for the afternoon classes するのか、という情報を付け加えています。

副詞用法の ing 形は、「分詞構文(ぶんしこうぶん)」と呼ばれることもあります。

[練習1] 次の英文に記号を付け、日本語に訳しましょう。

- (1) Walking with Max is good for my health.
- (2) I enjoy playing catch with him in the park.
- (3) It is an exciting training for Max.
- (4) He sometimes runs after birds flying in the air.
- (5) Running around an open space, he returns to a wild animal.
- (6) I sometimes run with him, getting sweaty all over my body.

[復元英訳] 次の日本語を英語に訳しましょう。(答えは pp.122,125 を見てください。)

(1) 友だちと昼食をとることは、とても楽しいです。

_____ (_____) _____

(2) 彼(女)らと昼食をとりながら話をするのが好きです。

_____ (_____) (_____)

(3) ときどき、私は、彼(女)らから、びっくりする話を聞きます。

..... _____ _____ (_____)

(4) 彼(女)らは、生活の中で起こっていることについて話します。

_____ (_____) (_____)

(5) 友だちと笑いあっていると、私は自分の人生について、本当に満たされていると感じます。

(_____), _____ _____ (_____)

(6) 私は、心の中が暖かく感じながら、午後の授業の準備をします。

_____ (_____) _____ (_____)

(7) マックスと一緒に散歩することは、私の健康にとって良いです。

_____ (▶ _____) _____ (▶ _____)

(8) 私は、公園で彼とキャッチボールするのを楽しみます。

_____ (▶ _____) _____ (▶ _____)

(9) それは、マックスにとって、楽しいトレーニングです。

_____ an _____ (▶ _____)

(10) 彼は、ときどき、空を飛んでいる空を追いかけて走ります。

_____ (▶ _____) _____ (▶ _____)

(11) 開けた場所を走り回っていると、彼は野生動物に戻ります。

_____ (▶ _____), _____ (▶ _____)

(12) 私はときどき彼と一緒に走って、全身汗だくになります。

_____ (▶ _____), _____ (▶ _____)

[練習2] 次の和文を英語に訳しましょう。

(1) 毎朝散歩に行くのは、僕にとっては楽しい時間だ。

(is / every morning / a walk / going for) a fun time for me.

(2) 僕は近所を見て回るのが楽しいです。

(around / enjoy / I / looking) the neighborhood.

(3) 変わりゆく季節を見るのはすばらしいです。

It is great to (changing / see / seasons / the).

(4) 僕の身体に触れるそよ風は、季節について多くのことを教えてください。

The (body / touching / my / tells / breeze) me many things about the seasons

(5) そんなことを考えていたら、僕は自分が犬だということを忘れてしまいます。

(things / such / about / thinking), I forget that I am a dog

(6) それで、僕は突然走り出し、マリを置き去りにします。

So, (suddenly / I / running / begin), (Mari / leaving) behind.

(4) 授業者による授業説明

1. 帯活動（1）

不規則変化動詞活用表を、授業者の範読により *chorus repetition* する練習を行った。

これを行う理由は次の2点である。

（1）過去形を導入する単元であり、さまざまな動詞の過去形に習熟させるため

（2）英語のフォニックスの練習材料として適しているため

なお、単元としては過去分詞の導入はまだ先であるが、この時点で過去形と併せて導入し、習熟させておくことで、以後の学習が円滑に進むと考え、この単元ですでに練習させている。

1. 帯活動（2）

チャンツを行った。

本時で扱ったのは、*I know an old lady who swallowed a fly.* というものである。原作を、教育的観点から授業者が改変したものを使用している。

チャンツは、英語の強勢拍に習熟させるため、年度当初より、練習する英文を変えながら継続して実施している。

このチャンツには、不定詞や関係代名詞といった未収の構造が含まれているが、文法として扱うことはせず、音声として習熟するように指導している。

上述の過去分詞と同様に、それが主たるターゲットになる単元に先行して、その形式だけを口頭で練習させておくことで、以後の学習が円滑に進むことを期待する意図もある。

2. 復習

直近の単元では、法助動詞を扱った。

助動詞に関しては、一般動詞を扱った際に、否定文・疑問文で使われる *do/does* が助動詞の一種であるという指摘をもって導入している。

その後、現在進行形を扱う際には、現在進行形を作る *be* 動詞も助動詞の一種であることを確認し、そこまでの理解を前提として、法助動詞の指導を行っている。

その一連の指導の中で、同じ語句でも、文中では異なる品詞で使われる場合があること、さらに、助動詞と動詞のように、先行する語句が後続する語句の語形に影響を及ぼすことを生徒は学習した。

本時では、そこまでの学習を踏まえて、2つの文に表れる *every day* という表現が、それぞれ異なる品詞として使われていることへの気づきを促すことで、上述の学習内容を想起させることを意図した。

3. 導入

前時にディクテーションを行っている。

書きとる英文は、授業者が創作したオリジナルのものであり、ストーリー性を持たせてある。

意図としては、現在進行形以外の *-ing* 形を含めていることと、生徒にとっての未知語をあえて混ぜていることである。その意図は、

（1）同じ語句が異なる品詞で使われるという知識を活用させること

（2）聞こえた音と自分の理解しているスペリングの規則とを照合して文字化することであった。

前時では、一連のストーリーの前半部分を書きとらせた。

本時では、後半部分を授業者が読み上げ、生徒に書きとらせた。

読み上げる速さやポーズの置き方を変えて難易度を調節しながら何度も読み上げ、生徒がある程度

書き切ったことを確認して、次の展開に移った。

生徒どうしで書きとった英文を照合させ、各自の聞き取りの自己修正を促した。

4. 説明

オリジナル教材『構文で学ぶ英文法』の記述を参照させ、同じ語句でも文中の位置関係により異なった品詞として使われる場合があることを指摘し、書きとった英文中の-ing 形が、それぞれどの品詞として使われているのかを考えさせた。

5. 練習

同じ英文を再度読み上げ、品詞の理解に基づいて、再度の自己修正を促した。

正しいスクリプトを提示し、各自で自分の聞き取った英文の正誤を確認させた。

正しいスクリプトに基づき、英文和訳をするように指示した。

その際、継続して使用している記号を付与しながら訳すことを求めた。

これは、各語句の品詞を意識させ、品詞の配列から構文を視覚化し、明確な根拠をもって和訳することを促すためである。

各自が訳した和文を生徒どうしで照合し、各自の訳出の自己修正を促した。

探究という観点からは、2つの仕掛けを行っている。

(1) ディクテーション

聴こえてきた英文を書きとる活動自体はシンプルなものであるが、外国語の音声を正しく文字化するのは決して容易ではなく、聴こえてきた音と、自分が理解しているつづり字規則を照合して書きとらなければならない。中学校入門期の生徒にとっては、自分の持てるリソースを最大限に活用することが求められる。これは、まさに習得した知識を活用しながら未知の課題解決を図るという意味で、探究的な学習といえる。

(2) 英文和訳

ディクテーションと同様に、眼前に見えている英文を日本語に訳すこと自体はゴールの明確な活動である。しかし、単に辞書で調べた語句の意味をつなぎ合わせ、日本語としてなんとなく意味が通るようにかき混ぜるといったやり方では、英語という言葉の仕組みを正しく理解しているとはいえない。記号付与によって英文の抽象的な構造を視覚化し、その理解に基づいて、根拠をもって和訳することは、やはり辞書や既習の知識といったリソースを活用しながら、生徒自身が試行錯誤することを促し、すなわち、探究的な学習につながる。

(5) 協議会における授業説明用スライド

広島大学附属中・高等学校
2020年度教育研究大会 英語科分科会

公開授業について

「知識・技能」の「習得」を「探究的」に

山岡 大基
Yamaoka, Taiki
tyamaoka@hiroshima-u.ac.jp

「探究」と「探究的な学び」

探究
(思考・判断・表現+革新?)

活用
(思考・判断・表現)

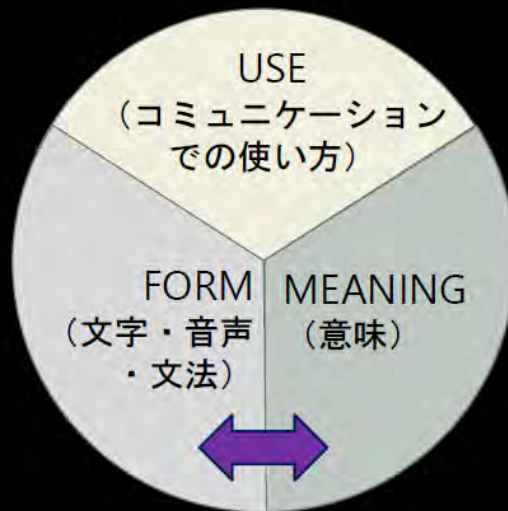
習得
(知識・技能)

目標 (ゴール) としての
「探究 (そのもの)」

プロセスとしての
「探究的な学び」

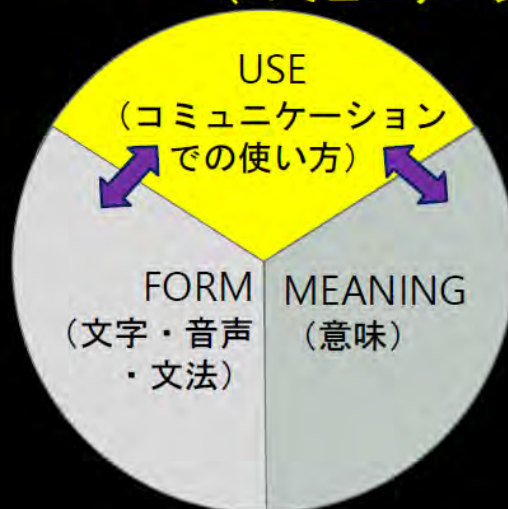
主体的な学び・・・ proactive learning ⇔ reactive ?
対話的な学び・・・ collaborative learning ⇔ individual ?
深い学び・・・ authentic learning ⇔ artificial ?

「外国語教育論」での学習観



Form-Meaning Mapping (形式と意味の対応付け)

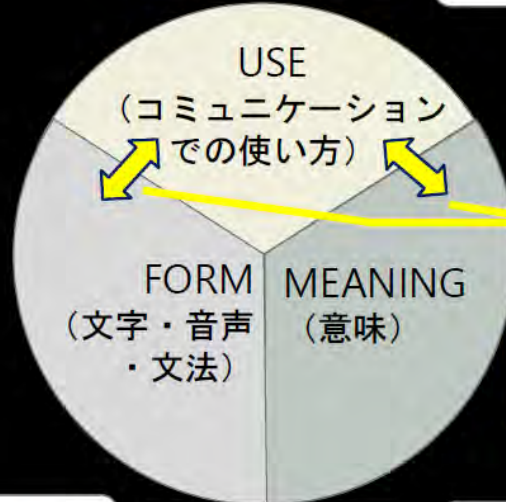
「外国語教育論」での学習観 Communicative Competence (コミュニケーション能力)



「外国語教育論」と「学校教育論」の関係

活用

思考・判断・表現



探究

知識・技能

習得

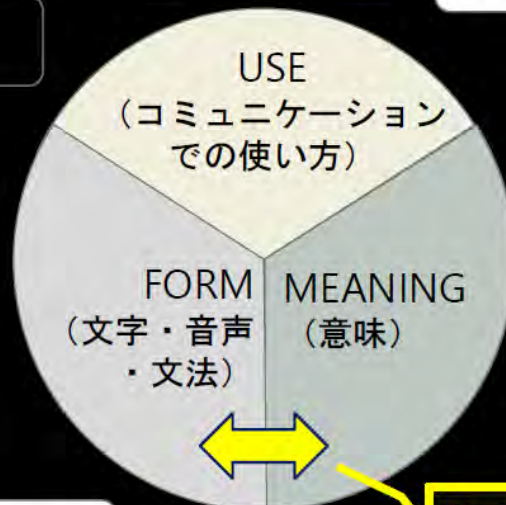
2018, 2019

「外国語教育論」と「学校教育論」の関係

活用

思考・判断・表現

2020



知識・技能

習得

探究(的に)

Form-Meaning Mapping

「地図は現地ではない」

Form-Meaning Mapping

“I want to be a game creator in the future.”

ゲームに没頭しているのを親にとがめられて言い訳をする。

I	want	to	be	a	game	creator	in	the	future
わたし	欲する	~こと	である	1つの	ゲーム	開発者	~で	その	未来
主語	述語動詞			補語			修飾語		
名詞	動詞	前置詞	動詞	冠詞	名詞	名詞	前置詞	冠詞	名詞

Form-Meaning Mapping

"I want to be a game creator in the future."



Form-Meaning Mapping

multi-level での処理

スキーマ

+

アルゴリズム

「英文はこのような構造をしているはず」という知識

スキーマに沿って
encode/decodeする操作手順

階層間の上下動を整理
処理を容易に

Form-Meaning Mapping

スキーマとアルゴリズム：本実践での枠組み

名詞 = (セン) 動詞 = ○ (マル) 形容詞 = (ナミセン)
前置詞 = △ (サンカク) 前置詞+名詞 = (△) (カッコ)

英語 ○ (セン・マル・セン)

日本語 ○ (セン・セン・マル)

英語 (△) (サンカク・セン)

日本語 (△) (セン・サンカク)

ディクテーション
音声 → 文字

英語 1 play soccer (at school).

訳順 1 5 4 3 2

日本語 私は (学校 で) サッカー を します。

実践上の留意点（英語）

1. 探究的な学び

探究的な学びを起動するために、本時の授業では2つの仕掛けを用いた。

(1) ディクテーション

聴こえてきた英文を書きとる活動自体はシンプルなものであるが、外国語の音声を正しく文字化するのは決して容易ではなく、聴こえてきた音と、自分が理解しているつづり字規則を照合して書きとらなければならない。中学校入門期の生徒にとっては、自分の持てるリソースを最大限に活用することが求められる。これは、まさに習得した知識を活用しながら未知の課題解決を図るという意味で、言語材料に関する探究的な学習といえる。

(2) 英文和訳

ディクテーションと同様に、眼前に見えている英文を日本語に訳すこと自体はゴールの明確な活動である。しかし、単に辞書で調べた語句の意味をつなぎ合わせ、日本語としてなんとなく意味が通るようにかき混ぜるといったやり方では、英語という言語の仕組みを正しく理解しているとはいえない。記号付与によって英文の抽象的な構造を視覚化し、その理解に基づいて、根拠をもって和訳をすることは、やはり辞書や既習の知識といったリソースを活用しながら、生徒自身が試行錯誤することを促し、すなわち、探究的な学習につながる。

2. 文脈の中での学び

言語学習においては、意味のある文脈の中でターゲット項目に触れることが有効とされる。言語材料の学習は、しばしば脱文脈的なセンテンス単位の例文を用いて行われるが、これは、文脈のサポートなく、英文の形式だけを学ぶことを強いるので、効果的ではない。

本時では、復習のために用いた英文、ディクテーションのために用いた英文、さらには、文法の知識を導入するために用いた『構文で学ぶ英文法』で提示される英文のすべてにストーリー性を持たせた。有意味なストーリーの中でターゲットの言語材料に触れることで理解が促され、授業後に復習する場合も、授業中にどのようなことを学習したかが想起されやすくすることを意図した。

3) コアとなる教科内容を重視した学び

本時の授業者は、英語という言語に習熟するためには次の2つの習得が不可欠と考えている。

(1) 強勢拍リズム

(2) 品詞と品詞の関係

(1) については帯活動の中で継続的に訓練を行っている。(2) については、品詞という抽象的な概念を初学者にとって操作可能な具体物にするため、記号付与という手段を用いて指導している。

現今の英語教育の潮流では、USEに重きが置かれ、意味のやり取りを目的とした活動を数多く経験する中で、形式についての学習も促すことが強調されている。そのこと自体は誤りではないが、一方で、そういった **implicit** な学習を得意としない生徒がいることにも、常に留意しなければならない。

(1) (2) のようなコアとなる教科内容は、**meaning-focused** な活動の中では等閑視されがちであるので、本時のように **form-focused** な活動も併用する中で焦点化することで、さまざまな学習スタイルの生徒に幅広く対応することが可能になると考えている。